

参加者のこえ

参加プログラム ビッグ☆塗り絵



加藤 卓也さん・千尋さん
大晴くん (佐倉二区)

家では絵の具で色を作ったり、こんなに大きく描いたりすることはないので、子どもと一緒に楽しめました。同じ御前崎に住むJIROさんのアートにふれることができて良かったです。

参加プログラム ミニトマト収穫体験



松井美樹さん(白浜区)
飯塚恵味さん(掛川市)

売り物のトマトには必ずヘタが付いていますが、ヘタを残して収穫する難しさを知りました。実際に体験しなければ知らなかったことです。



①ごとう農園(合戸)で御前崎の特産品ミニトマトの収穫を楽しむ親子②自身のプログラムで地酒の説明をする岸和田代表③晴天の中、サップなどのマリンスポーツを楽しむ参加者④団体メンバーでアーティストのJIROさん(下朝比奈)がデザインを手掛けたポスターを見ながらイベントの打ち合わせをする実行委員⑤砂丘砂絵で好きな色砂を使って「マーメイド」を彩る子ども⑥御前崎のきれいな海を守るため、マリパーク西ビーチの漂着ごみを拾う参加者⑦中遠調理師専門学校(本町)で御前崎産いちごのくず粉ゼリーを食べるのが待ちきれない子ども⑧かつて地域の洗濯場にもなっていた庚申堂(中原区)の冷たい水で涼む参加者⑨龍泉寺(佐倉三区)で座禅をして心を整える参加者

第1回 おまえぎはくらんかい



Q. 御前崎の魅力を感じることはできましたか



おまえぎはくらんかい参加者アンケート ※ 8月1日集計時点

おんぱくの詳細は
二次元コードから
ご覧になれます。



▲ホームページ



▲Instagram

御前崎の魅力を余すことなく感じられるおまえぎはくらんかい。第二回開催時には、ぜひ参加してみてくださいいかがでしょうか。

おんぱくでまちに盛り上がりをおんぱくで感じるもの

岸和田さんは「まちの魅力を知ることとは、『御前崎を好きになる』ことにつながっていくと思います。自分のまちを好きになれば、まちのために活動しようと思ったり、活動している人を応援しようと思ったりすると思うんです。そういう人が増えれば御前崎はもっと活気が出て輝くまちになると思います」と話す。さらに、次回の開催に向けて、「今回以上に幅広い年齢層の人に御前崎の魅力を伝えていきたい」と熱意に燃えている。

ラム後に参加者に対して行われたアンケート調査では、93.3%の人が「御前崎の魅力を感じる事ができた」と回答した。実際、取材したどのプログラムでもほとんどの参加者が、「御前崎の良さを知れた」「御前崎にはこんなものがあるんだね」と目を輝かせて会話をしていた。また、その姿を見た案内人が顔をほころばせ、「御前崎の魅力が伝わってうれしい」とつぶやく姿が印象的だった。

おんぱくで感じるもの

岸和田さんは「御前崎が好きな案内人とこの土地ならではのプログラムは、御前崎でしか体験できないものです。それぞれのフィールドでの体験を通じて、大勢の人に『御前崎っていいところだね』と実感してもらいたくて、『御前崎らしさ』を重要視しました」とイベントへの思いを話した。

御前崎の魅力を伝えたい

